

# 令和6年度の学校評価

令和6年度の重点目標	<p><b>「関わる」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ すべての生徒の自己有用感と自己効力感を育む学校作り</li> <li>○ すべての教職員が意欲をもって働ける環境作り</li> </ul>
------------	--

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
行事 企画 部	<p>①無理のないPTA活動の実施 ②効果的に防災への意識を高める避難訓練の実施 ③ホームページを利用した広報活動の活発化</p>	<p>①教員、生徒、PTA役員の数が増加した状況でも無理なく活動できるよう、活動方法を見直す。 ②従来の避難のみを実施する避難訓練ではなく、ワークショップや外部との連携等の方法を模索し、より効果の高い避難訓練を実施する。 ③行事ごとに情報を発信し、本校の状況が随時伝わるように努める。</p>	<p>①活動回数の減少や活動内容の簡略化だけにとどまらず、生徒とPTAが協力する場面を作るなど、多様な方法で負担軽減を行う。 ②積極的な外部との連携により、被災者の方の声を生徒に届けることや、防災に関する体験活動などを検討する。 ③年間で20回程度の更新を目標とする。</p>
	<p>①稲東祭の充実 ②奉仕活動の推進 ③広報活動の活発化</p>	<p>①外部機関を活用することにより、教員および生徒の人数の減少による人手不足を補う。また、生徒が主体的に行事に取り組める環境を整えることで、生徒の想いを実現する、充実した稲東祭にする。 ②ボランティア活動として校内の美化活動を計画的に実施する。 ③ホームページやYouTubeチャンネルの活用することで、生徒の活躍を周知できるようにする。</p>	<p>①文化祭での音響の外部委託に加えて、体育祭の運営の外部委託も検討する。生徒の8割以上が満足感を得られる稲東祭とする。 ②積極的にPTAと連携する。 ③YouTubeチャンネルを活用し、稲東祭や閉校式についての情報を公開することで、同窓生や近隣住民の方に情報が伝わるようにする。</p>
生徒 支 援 部	<p>①基本的な生活習慣を確立させ、好感の持てる身だしなみをするにより、社会性の養う。 ②心を育て、規範意識を高める生徒指導の推進 ③安心・安全な学校生活の確保 ④学校と保護者が連携した指導体制の構築</p>	<p>①遅刻、欠席への指導を通し、時間に対して意識をさせることにより、基本的な生活習慣を確立させる。また身だしなみ指導を通して、好感の持てる身だしなみとなるように指導する。 ②個人面談を充実させ、生徒理解を深める。また人権教育や道徳教育を重視し、道徳心や自己有用感を高められるように指導する。 ③いじめ防止基本計画に基づき、組織体制を構築する。また定期的な巡回により生徒に安心感を与える。登下校では、交通安全指導を通して交通ルールやマナーを理解できるように指導する。 ④観察や面談により察知した生徒の変化を教員間、保護者とも共有し、保護者の協力を得て、支援や指導にあたる。</p>	<p>①段階的な遅刻指導・身だしなみ指導により、生徒把握及び指導の徹底を図る。 ②生徒の言葉に耳を傾け、生徒一人一人に合った指導を行う。また、自己有用感を高められる論説を行う。 ③学校生活アンケートの実施や日頃の巡回を行い、いじめの未然防止や早期発見に努める。また、交通事故の現状を理解させる。 ④生徒情報の共有を図り、役割分担をして指導にあたる。</p>
	<p>①諸検診の円滑な進行。 ②教育相談体制の充実。 ③学習環境の整備・美化、ごみの減量、安全点検の推進。 ④心身の健康問題の早期発見・早期対応を図るための健康観察の充実。</p>	<p>①4月に修学旅行があるため、修学旅行事前検診を兼ね、例年より早い時期に内科検診を実施する。 ②学年・分掌とスクールカウンセラーの連携強化のため、教育相談委員会において該当生徒の支援方法を検討し、情報についてフィードバックを行う。 ③学習環境美化とごみの減量を図る。ごみの持ち帰りを啓発し、ゴミ箱は生徒が教室利用する廊下のみ設置する。全生徒での清掃活動は引き続き行う。人員削減のため、清掃分担区域の統合を考える。 ④朝の健康観察を行い、心身の健康問題の早期発見に生かす。また、健康観察の事後措置（健康相談・保健指導等）を行い、健康状態の把握に努める。</p>	<p>①保健調査の実施では、心の状態を把握する機会としても利用する。年間を通して、生徒の状態を担任と共有する。 ②個人情報も多く含むため、情報管理に留意する。また、情報共有の際には、共有範囲を検討する。 ③ごみの減量は同時に資源化を図ることを意図する。帰りのST前に一斉清掃を行い、校内環境の美化に努める。 ④健康観察の結果をフィードバックし、有効活用することを考慮する。</p>

項目	重点目標	具体的方策	留意事項
教務	<p>①生徒の学習への取組意欲を高める魅力ある授業づくり。</p> <p>②生徒の学習意欲を喚起できる考査の実施。</p> <p>③図書室の充実。</p> <p>④校務支援システムの利用による教員の業務軽減。</p>	<p>①授業研究週間に代わり授業の様子を動画に保存するなどして、各教科へ言語活動や探究活動、ICTを取り入れた授業展開例などを提示し、授業方法・指導方法を共有できるようにする。</p> <p>②観点別評価の規準を明確にし、様々な観点から評価できる考査を作成し、生徒の学習意欲につなげていく。</p> <p>③読書に親しみを持たせ、生徒の学ぶ意欲を喚起していく。</p> <p>④システムの操作方法についての現職研修を実施する。</p>	<p>①各教科へ言語活動や探究活動や、ICTを取り入れた授業展開などを提示し、実践を促す。</p> <p>②事前に生徒に評価方法を明示するとともに、考査時は教室の環境整備と考査資料の正確な作成に努める。</p> <p>③図書館を多様なニーズに応える空間とすることで、図書館に親しみを持たせ、図書館の活性化につなげる。</p> <p>④新しいシステムの操作研修を定期的実施し、校内のペーパーレス化を図っていく。</p>
進路指導	<p>①生徒、保護者にとって望ましい将来像設計(フューチャーデザイン)の実現を目指した進路指導の確立。</p> <p>②学年団と日頃からの情報交換に加えて、進路検討会や補習の充実。</p> <p>③生徒の志望や適性に応じた試験制度の活用を推進し、それに向けての個別指導の充実。</p>	<p>①進路講演会・進路総合の充実を図り、進路の手引きを有効に利用する。進路に合わせた外部模擬試験を適切に活用し、事後指導を充実させる。</p> <p>②進路検討会では、適切な資料を用い、議題を明確にした上で、活発な議論ができるようにする。補習については、生徒の希望や状況に応じて柔軟に開講する。</p> <p>③生徒理解を深め、適性を考えた上で総合型選抜などの入試制度を活用する。就職試験や公務員試験に向けた指導も充実させる。</p>	<p>①進路総合は、必要に応じて外部講師を活用する。進路の手引きは、今年度の実態や入学試験の内容を十分に活用する。模擬試験は、生徒の進路希望に応じて受験をさせる。</p> <p>②進路検討会は、教員間の共通理解が深まるように議題設定を考える。補習は、その目的を生徒に理解させ、必要に応じて受講させる。</p> <p>③面接等を通じて生徒の意向の確認を行い、進路実現に向けて必要な行動を早期に促す。入試制度や求人情報を、本人や保護者に適切に提供する。</p>
第3学年	<p>①他者を思いやる心を育てる</p> <p>②最終学年として、学校全体を盛り上げる。</p> <p>③すべての生徒が進路を決定して卒業できるように、主体的な進路実現を支援する。</p> <p>④授業規律を正し、生涯、学習を続けられるような習慣をつける</p> <p>⑤修学旅行の成功</p>	<p>①学校生活を通して、他者と関わる場面を積極的に設けることで、社会の一員としての振る舞いや他者を思いやる心を身につけさせる。</p> <p>②学校行事において、すべての生徒が参加するような企画を考え、生徒一人一人が活躍する場面を設定し、自己肯定感を育む。</p> <p>③4月当初から、LTや総合、個人面談などを通して、進路の情報を積極的に与え続ける。様々な選択肢を考えさせるとともに、具体的な行動を起こすように促していく。</p> <p>④探究的な活動を通して、自ら課題を設定しそれを解決する経験を積むことで、学習方法や学習ツールを理解させていく。</p> <p>⑤事前指導で集団行動の重要性を理解させ、規律ある行動ができるよう伝える。また、事前学習で調べた内容を振り返らせ、知的好奇心をくすぐる。</p>	<p>①この先の人生においても集団での生活は続くので、相手の立場を考えて行動することが重要だと伝え続ける。</p> <p>②生徒自らが企画し、生徒自らが行動に移せるよう、具体的な助言を与え続けるとともに、教員も生徒と共に考える。</p> <p>③進学、就職どちらの生徒にも、早い段階から多くの選択肢を提示し、オープンキャンパスへの参加などを促し続けていく。</p> <p>④卒業後も勉強は続くので、各個人に適した学習方法や、知識獲得の方法を身につけさせる。</p> <p>⑤普段以上に生徒の様子に気を配り、きめ細やかにコミュニケーションを取りながら、小さな行動でも褒めることで自信を持たせる。</p>
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が達成感を味わうことができる授業改善</li> <li>・全生徒が充実した生活を送ることができる環境づくり</li> <li>・組織的運営により業務の分担を考えた働き方改革について</li> </ul>	